

旭川市報道依頼

各報道機関 様
(旭川市政記者会)

発表日	平成30年7月24日
発信課	消防本部総務課
担当者	筒井
連絡先	電 話 0166-23-4556
	FAX 0166-24-2229
	E-mail:syoubou_soumu@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 募集 契約・入札 会議・説明会 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	
発表項目 (行事名)	上川町愛山溪村雨ノ滝付近での山地事故について (お知らせ)
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	平成30年6月23日(土)に上川町愛山溪で発生しました山地事故について、事故概要と消防の活動等についてお知らせします。
添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 (有・無のいずれかを囲むこと。) ※ 有の場合、資料の内容を記入すること。なお、別途冊子等の配付を希望する場合は、その旨記入すること。
報道(取材)に当たってのお願い	
備 考	

上川町愛山溪村雨ノ滝付近での山地事故について

1 発生日時

平成30年6月23日（土） 発生時刻については不明

2 発生場所

上川郡上川町 字愛山溪 村雨ノ滝付近

3 消防覚知時刻

午前11時22分

※ 10時46分に第1報が入るも電波状態が悪く繋がらず。指令センターから継続的に逆信し、通報者と繋がった時刻は11時22分であった。

4 事故概要

夫婦で愛山溪村雨ノ滝付近を登山中、妻が転倒し、股関節付近の痛みを訴え動けないとの夫からの救助要請。消防が要請した防災へりに隊員2人が搭乗し、へり隊員の介助によりホイスト降下後、要救助者がいる地点へ移動していた隊員のうち、1人が雪溪で滑落し負傷したものの。

5 負傷者

(1) 登山者（56歳女性）

搬送先の旭川医大で死亡確認

(2) 消防隊員（32歳男性、階級：消防副士長、所属：上川消防署）

頭部の負傷により意識不明

6 消防の活動概要（主に負傷した消防隊員に関わる動きを抜粋）

- 11:22 消防覚知（119番通報を受報）→ 山地での救護・救助活動に必要な職員で非番・週休職員を召集連絡
- 11:35 道警山岳救助隊を要請
- 11:37 指揮隊 出動 → 愛山溪温泉（登山口）に現場指揮本部を開設
- 11:44 指揮隊が防災へりを要請
- 13:26 防災へり情報「要救助者らしき者を発見しているが、気流の関係で接近できず。」
- 13:42 防災へり情報「地上隊（消防）が村雨ノ滝（現場）西側尾根上の登山道まで要救助者を搬送できれば、同場所からの吊り上げ救出は可能」
- 13:45 防災へり情報「村雨ノ滝（現場）西側尾根上の登山道に地上隊（消防）を投入（へりから降下）可能」
- 13:51 指揮隊が防災へりでの消防隊員投入を決定
- 14:26 道警山岳救助隊 愛山溪温泉 着 → 入山開始
- 14:47 指揮隊が防災へりで投入する消防隊員を決定
 - ・心停止前の救命処置可能な救急救命士B（負傷隊員）を優先投入する。
 - ・3回に分けて、①2人A・B（負傷隊員）、②3人、③3人を投入する。
- 15:32 防災へりに①が搭乗し離陸
- 15:41 道警山岳救助隊情報「（要救助者と接触し観察した結果）要救助者は意識なし。」
- 15:51 防災へりから①が降下完了 → ①が要救助者地点に向けて移動を開始
- 16:00 防災へりに②が搭乗し離陸

- 16:04 ①のうち1人B(負傷隊員)が滑落 → 滝壺岩場に転落
 《Aと道警山岳救助隊が合流し、負傷隊員の移動及び救急処置を実施》
- 16:08 Aから防災ヘリに、現在地でのヘリによる救出を依頼するも「隊員を投入するため、吊り上げ資機材を下ろしており、一旦帰投しなければ不可能」との回答
- 16:15 防災ヘリから②が降下完了
- 16:18 防災ヘリは燃料残りわずかのため旭川空港に一旦、帰投
 《指令センターから道警ヘリ、札幌消防ヘリを要請するもいずれも対応不可との回答》
- 16:40 ②がAに合流 → B(負傷隊員)及び要救助者を下山方向に搬送開始
- 17:10 道警ヘリ、札幌消防ヘリともに運航可能との連絡を指令センターが受ける。
- 17:15 指令センターからドクターヘリを要請
 《下山方向に搬送しながら、ヘリによる救出が可能なポイントを検索》
- 17:52 B(負傷隊員)を吊り上げ防災ヘリ機内に収容完了
- 18:03 防災ヘリからドクターヘリへ引継ぎ
- 18:29 ドクターヘリ 日赤 着
- 18:43 要救助者にあつては、道警ヘリ及び救急隊により旭川医大へ収容完了

7 負傷隊員の滑落時の服装及び装備

(1) 服装

活動服上下、皮手袋、登山用ヘルメット、シットハーネス、スパッツ、編み上げ靴

(2) 装備(ザック内に入っていた物)

30Lザック、カップ上下、ヘッドライト、軽アイゼン、ポール、カラビナ、デージーチェーン、食料、飲料、救命資機材(輸液資機材一式、三角巾、メモ帳等)

8 滑落現場付近の状況

出動した隊員からの聞き取り調査、6月25日に実施した警察との現場確認及び6月29日に実施した事故調査委員会の現地調査の結果、次の点が判明した。

- (1) 滑落現場は、村雨ノ滝への落ち口付近の斜面であり雪渓に覆われている状況
- (2) 雪渓の上端から下端までの距離は直線で約30m、雪渓の下端から滝の岩場までの高さは約7m
- (3) 雪渓は上部の斜度は約50度、中程から下端までの斜度は約30度
- (4) 滑落現場の雪質は粗目状態であり、踏み込むと靴が沈む状態

9 事故調査委員会の設置

平成30年6月25日に今回の事故を受け、消防本部内に事故調査委員会(委員9人)を設置し、原因究明と今後の対策等について調査、検討を行う。

10 出動隊及び隊員数

10隊(37人)

11 出動関係機関

北海道警察(山岳救助隊及び航空隊ヘリコプター)

北海道防災航空室(消防防災ヘリコプター)

道北ドクターヘリ

12 原因

調査中